

関係各位

京都府病虫害防除所長  
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

## 病虫害発生予察注意報第1号

作物名           **水稲**  
病虫害名       **斑点米カメムシ類**

- 1 発生地域       **府内全域**
- 2 加害時期       **出穂後収穫期まで**
- 3 発生量         **平年比多い**
- 4 防除時期       **穂揃期及び傾穂期**
- 5 注意報発令の根拠

(1) 7月中旬に行った**畦畔雑草すくい取り調査の結果、府内全域の確認箇所率は63.3% (平年比やや多い)、平均虫数は14.6頭 (平年比多い)であった (表1)。**

主要な発生種は、アカスジカスミカメ (写真1)、クモヘリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシ (写真2) であった。**特に、アカスジカスミカメが多く捕獲された。**今後、これらのカメムシ類が出穂後水田に侵入することが懸念される。

(2) **アカスジカスミカメの予察灯への誘殺数 (6月第1～7月第3半旬までの合計値)は、京田辺市で13.0頭 (平年：1.4頭) と平年比多く、亀岡市で44.0頭 (平年：32.8頭) と平年並、京丹後市で110.0頭 (平年：95.4頭) と平年比やや多かった (表2)。**

アカヒゲホソミドリカスミカメの予察灯への誘殺数 (同上) は、京田辺市で42.0頭 (平年：21.0頭) と平年比やや多く、亀岡市で24.0頭 (平年：43.7頭)、京丹後市で58.0頭 (平年：89.7頭) と平年並であった。

(3) **ミナミアオカメムシ (写真3及び4) の発生を山城地域のナスで認め、京田辺市の予察灯 (60W白熱灯) への誘殺も認めている。**



写真1 アカスジカスミカメ成虫



写真2 ホソハリカメムシ成虫



写真3 ミナミアオカメムシ成虫



写真4 ミナミアオカメムシ幼虫

表1 斑点米カメムシ類調査結果（7月第3半旬：畦畔20回振りすくい取り調査）

	山城		南丹		中丹		丹後		京都府	
	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数	確認ほ場率	虫数
29年	83.3	50.8	66.7	5.4	66.7	1.0	44.4	8.6	63.3	14.6
平年比	並	多	多	やや多	並	並	並	やや多	やや多	多
	やや多		やや多		並		やや多		多	
平年	71.7	19.3	40.1	2.6	51.4	3.0	37.3	2.5	47.9	6.0
28年	50.0	7.2	44.4	2.7	16.7	0.2	22.2	1.7	33.3	2.8
27年	83.3	11.2	33.3	1.7	66.7	0.7	11.1	0.1	43.3	2.9
26年	50.0	6.8	77.8	1.2	66.7	8.3	44.4	1.4	60.0	3.8
25年	100.0	35.8	44.4	4.2	66.7	1.2	66.7	4.7	66.7	10.1
24年	83.3	50.8	33.3	0.3	66.7	1.8	33.3	0.6	50.0	10.8
23年	83.3	39.0	11.1	0.2	50.0	6.0	77.8	12.7	53.3	12.9
22年	66.7	11.7	33.3	2.3	16.7	0.3	55.5	1.7	43.3	3.6
21年	100.0	14.3	33.3	1.3	50.0	1.5	22.2	1.9	46.7	4.1
20年	57.1	13.3	50.0	10.8	57.1	2.9	10.0	0.1	41.2	6.5
19年	42.9	3.1	40.0	1.2	57.1	6.9	30.0	0.5	41.2	2.6

\* 虫数は、1ほ場当たりの平均値。

表2 カスミカメ類の予察灯誘殺結果（6月第1半旬～7月第3半旬）

	アカスジカスミカメ			アカヒゲホソドリカスミカメ		
	京田辺	亀岡	京丹後	京田辺	亀岡	京丹後
29年	13	44	110	42	24	58
平年比	多	並	やや多	やや多	並	並
	やや多			並		
平年	1.4	32.8	95.4	21.0	43.7	89.7
28年	0	4	47	18	1	80
27年	1	34	24	6	15	46
26年	0	23	117	67	35	60
25年	5	49	263	33	58	179
24年	3	4	46	12	5	88
23年	4	51	125	46	10	57
22年	0	40	18	6	42	10
21年	1	35	101	12	61	110
20年	0	39	87	10	171	75
19年	0	49	126	0	39	192

## 6 防除上の留意事項

### (1) 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にする。したがって、水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、**畦畔の草刈りを行うことが有効である**。草刈りは、イネが**出穂する2～3週間前と出穂直前の2回行うと効果的**である。作業の都合上、**1回で済ませる場合は、必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませる**。出穂期に近づきすぎて行うと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。

水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。

(2) 農薬による防除

カメムシ類の密度が高い水田では、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望ましい。使用農薬は、表3を参照のこと。

農薬の散布に当たっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用基準を遵守して適正に使用する。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。

(3) **ミナミアオカメムシの発生に注意**

平成22年に、府内で初めてミナミアオカメムシの発生を確認した。**平成28年までに山城地域と丹波地域の一部で本種の発生を認めている**。本種は、他の斑点米カメムシ類に比べて体が大きく吸汁量が多いため、少数でも被害が大きくなるので発生に注意する。

表3 斑点米カメムシ類に登録のある農薬（平成29年7月24日現在）

薬剤名	10a当たり使用量	使用時期	使用回数
アルバリン／スタークル粒剤	3kg	収穫7日前	3回以内
アルバリン／スタークル顆粒水溶剤	2000倍(60～150L)		
アルバリン／スタークル粉剤DL	3kg		
エルサン乳剤	1000倍(60～150L)	" 7日前	2回以内
エルサン粉剤3DL	3kg		
エルサンバッサ粉剤20DL	3～4kg		
キラップフロアブル	1000～2000倍(60～200L)	" 14日前	2回以内
キラップ粒剤	3kg		
キラップ微粒剤F	3～4kg		
キラップジョーカーフロアブル	1000倍(60～200L)		
キラップジョーカー粉剤DL	3～4kg		
スミチオン乳剤	1000倍(60～150L)	" 21日前	2回以内
スミチオン粉剤3DL	3～4kg		2回以内(出穂前は1回まで)
スミバッサ粉剤20DL	3～4kg	" 21日前	2回以内(出穂前は1回まで)
ダントツ粒剤	3～4kg	" 7日前	3回以内
ダントツ水溶剤	4000倍(60～150L)		
ダントツ粉剤DL	3～4kg		
チェス水和剤	2000倍(100～150L)	" 14日前	2回以内
トレボン乳剤	2000倍(60～150L)	" 14日前	3回以内
トレボン粉剤DL	3～4kg	" 7日前	
ベストガード粒剤	4kg	" 14日前	4回以内
ベストガード粉剤DL	4kg		
MR.ジョーカー粉剤DL	3～4kg	" 7日前	2回以内
MR.ジョーカーEW	2000倍(60～150L)	" 14日前	

※ 最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>)。